

企画展 丸山太郎へのオマージュ

時にふれて

令和4年9月17日(土)～令和5年3月12日(日)

手塚の道草は、
ハイハイと歩いた
草は、
はじめてあり、
火打の金がついて、
この袋には字が刻して
あふが何れも、

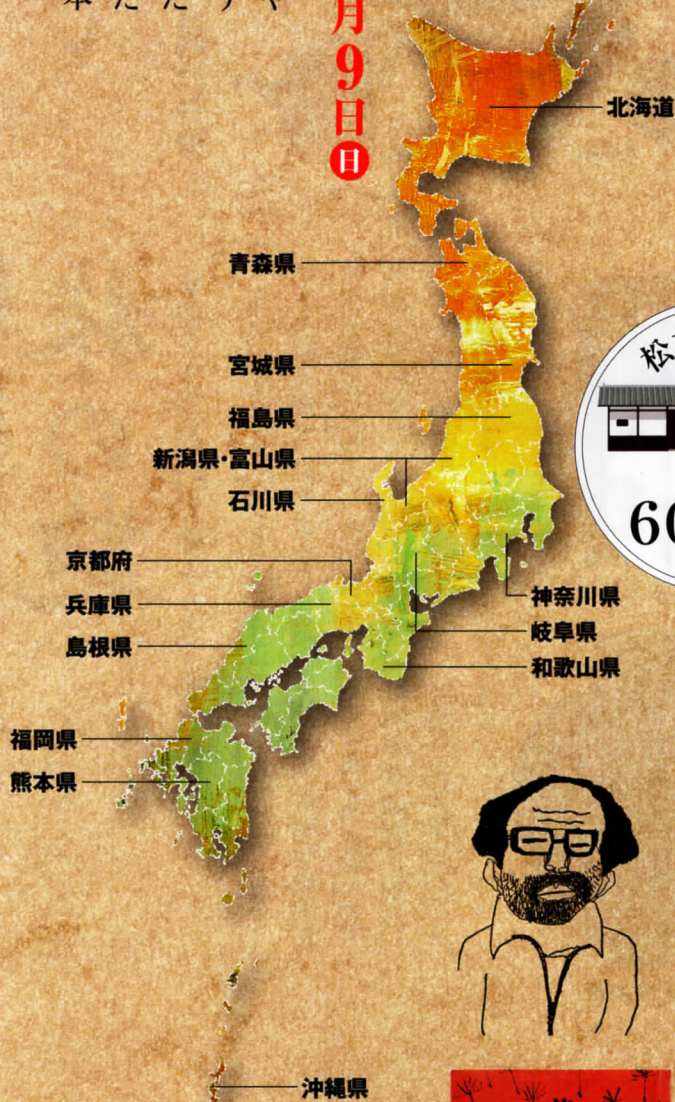


企画展 丸山太郎秀逸展

旅の鞆

令和5年3月14日(火)～7月9日(日)

私は人々のあこがれて行く美術館や博物館には余り興味がない。そう云う豪華な品では無く、もつとありふれた田舎の風景や古い建物や、ごみごみした庶民の暮しのある市場などで、湖畔の一本の大樹にでも感動の涙を流す方である。



松本市立博物館分館

松本民芸館

松本市里山辺1313-1 TEL (0263) 33-1569

【休館日】 毎週月曜日(休日の場合はその翌日)

【開館時間】 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【観覧料】 大人310円、中学生以下・70歳以上の松本市民は無料



企画展 丸山太郎へのオマージュ

時にふれて

令和4年9月17日(土)～令和5年3月12日(日)



螺細箱



手箱



大香入れ



墨壺



天眼鏡



油差し

2022年11月、松本民芸館は開館60周年を迎えます。創館者の丸山太郎は生涯で約6,800点の蒐集品を残しています。彼が42歳のときに製作した豆本、時にふれての中に描かれている、彼の美意識にかなった逸品の中から、民芸館に収蔵されているものと、それに関連した品々を選びました。パイプ、油差し、油壺、香合、火打石など、どれも当時は日常で使われていたものです。丸山太郎は「美しいものは美しい」、無言で語りかけてくる物の美を感じるこのほうが大切だと言っています。60周年企画第二弾は丸山太郎へのオマージュ、彼の多彩な足跡に敬意を表し収蔵品を公開します。

企画展 丸山太郎秀逸展

旅の鞆

令和5年3月14日(土)～7月9日(日)

丸山太郎は民芸品を求める旅に何度も出かけています。日本の津々浦々、北海道から沖縄、さらには、韓国や台湾にも足を運んでいます。その様子を、彼の著書「旅の鞆」の中に記しています。松本民芸館開館60周年企画第二弾は、彼の著書の中に登場する品々、また訪れた地域の品々を太郎の秀逸コレクションとして展示します。



菱刺し前掛け(青森県)



会津焼(福島県)



抱瓶(沖縄県)



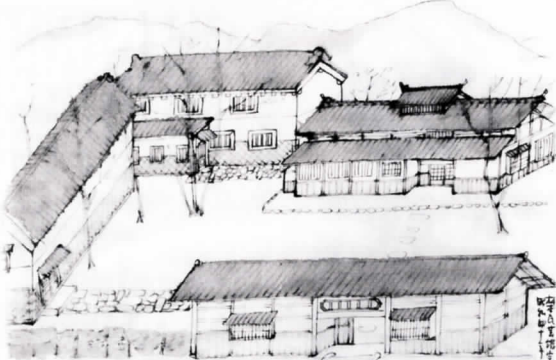
茶壺(福岡県)



土偶(台湾)



アイヌ着物(北海道)

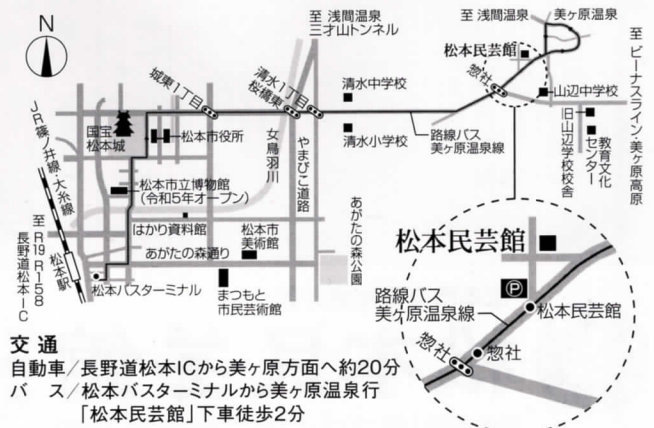


松本市立博物館分館

松本民芸館

松本市里山辺1313-1 TEL(0263)33-1569
URL <http://matsu-haku.com/mingei/>

松本民芸館 創館60周年



交通
自動車/長野道松本ICから美ヶ原方面へ約20分
バス/松本バスターミナルから美ヶ原温泉行「松本民芸館」下車徒歩2分

